

1、本園教育目標

- ① 普遍的人格の形成を目指して豊かな情操を養い、挨拶や約束ごとなど、基本的な生活習慣を身に付ける。
- ② 集団生活の中での強調を基本とする社会性を育てる。
- ③ 運動・遊戯・園外保育及びバランスのとれた給食活動等を通じて、身体機能の発育を促す。
- ④ 「御仏様お参り」・「絵本の読み聞かせ」・「素話」等の教材を取り入れて、表現力や集中力を養う。
- ⑤ 絵画制作などを通じて創造性を伸ばし、音楽・リズム等に親しみながら音感を培う等を柱として、幼児の成長にふさわしい生活環境(人的・物的)を整え、また幼児一人一人の主体性が培われるようカリキュラムを組み、家庭との連携を密にしながら、すこやかな心身の礎を築く。

2、本年度定めた重点目標

※ 教職員の資質の向上

支援を必要とする子どもたち一人ひとりが、どのようなことに困難を抱えているのか、また、どのような支援を必要としているのか、理解を深め、それに教職員が寄り添い共に生きる視点に立ち、療育先とも連携をはかり理解を深めていく。

※ 健康・安全管理

子どもの命を守る教育(火災・地震・防犯・交通安全)の充実を図り、安全意識を高めて園児自身が意識して行動できるように練習を積み重ねていくと共に、教職員も対応力を身につけていく。

学校安全計画、危機管理マニュアル、保健計画をしっかりと把握し、子どもの安全な園生活のための共通理解を図る。

※ 子育て支援・未就園児クラスの充実

4月からの2歳児クラスを充実させ、子どもたちがスムーズな園生活をスタートできるように計画する。子育て支援活動の一環として、未就園児の親子登園日を継続し、友達作りの場、育児に悩む保護者に寄り添う場として「こりすクラブ」を開催して、入園につなげていく。同時に、子育てに悩む保護者が気軽に相談できる場を作り、より多くの保護者に寄り添える体制作りを目指す。

※ 組織の運営

ホームページに加えて、他の媒体も活用して、様々な取り組みの発信を行い、多くの人にけんしん幼稚園の取り組みを知ってもらい、当園を身近に感じてもらえるように広報活動の拡充を図る。

保育後の業務に関しての時間の使い方を見直し、教職員の労働時間を各々が守る意識を持ち、有効な時間の使い方を身に付け、作業効率を上げる。

各分掌を明確にし、皆がリーダーシップを発揮できるような体制作りを目指す。

※ 整備事業を推進

園舎・園庭の改修や整備事業を推進し、安心できる環境整備を推し進める。

※ 指導計画の編成と実践

社会の変化と保護者の願いをつかみ、園の方向性と照らし合わせてみる。

年度毎に乳幼児の実態を話し合い、1年の目標を決める。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい資質や能力」、小学校就学前、幼児期の終わりまでに育みたい方向性を10の姿の視点で振り返り、子ども達の様子を通して年間計画の見直しをする。

3. 評価項目の達成及び取組状況		
評価項目	取組状況	評価
教育理念・教育方針に従った教育課程を編成する。	<p>親鸞聖人の示された仏教的な理念に基づく「まことの保育」を通して、その願いを実現していく教育理念・教育方針・教育信条を定め、幼稚園教育要領や保育所保育指針等との関連性を構成している。実際に、どのように展開していくことが理に適った教育・保育活動に繋がるのかを具体的な事例を挙げてみた。結果的に、既に展開している日々の活動の一端と「まことの保育」の繋がりを再認識することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 仏様の教え: 毎日仏様に手を合わせ、礼拝するなど、宗教的情操教育を重視した活動。 ◎ 社会性の育成: 集団生活の中で約束を守る大切さ、友だちと協力する喜びを学ぶ。 ◎ 心身の発達: 遊びや体験活動を通じて、心と体のバランスの取れた発達を促す。 	A
幼児の実態を的確に捉え、具体的な手段を講じる。	<p>本年度定めた重点目標「幼児期の終わりまでに育ってほしい資質や能力」、小学校就学前、幼児期の終わりまでに育みたい方向性を10の姿の視点で振り返り、個々の子どもの育ちを丁寧に評価することを意識した教育・保育活動が展開できている。</p> <p>学年間の緊密な情報交換を通して、子どもの発達課題に即した指導を重視し、指導計画を子どもの姿に合わせて柔軟に変更することができるようになってきている。また、子どもの好奇心や探求心を引き出す環境を整え、共同的な活動の機会を意図的に設けることができてきている。</p>	A
園内研修の充実と、各研修会や研究会に参加してスキルアップを図る。	<p>園内外研修の目的を明文化し、園内外で実施する研修に積極的な参加を試みたが、結果として、保育園部と幼稚園部のカリキュラムの差異によって参加頻度に偏りが生じた。今後は夫々の特性を踏まえて、以下のように研修目的を明確にして全員で共有し、それぞれのスキルアップを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 保育士の専門知識や技術を深める。 ② 最新の保育方法を理解する。 ③ 園全体の保育の方向性を共有する。 ④ 職員会議等において保育者間の意見交換を活発化する。 ⑤ 問題意識を共有し、課題解決を図る。 	B
地域や保護者への情報発信の充実を図り、保護者の要望や意見には適切な対応と満足度の向上に努める。	<p>情報発信は、学校運営における重要な活動の一つであり、保護者や地域住民が園の活動を理解し、安心感を抱くためにとっても重要であるが、特に保護者の意見や要望は改善のための貴重な情報源なので、アンケートを定期的実施して、意見や評価を共有することができている。</p> <p>また、今後の課題として、SNSをはじめICTなどの多様な媒体の活用が益々必要になってくることから、教育プログラムやカリキュラムの透明性、子どもの学習進捗や園での子どもの様子を具体的に伝え、安心感を高めることが求められている。</p>	B
安全管理・危機管理体制の充実を図る。	<p>園児の安全と安心を確保するためには、安全管理と危機管理体制の充実が不可欠であり、体制の強化には、マニュアルの整備、職員研修の実施、連携体制の確立が重要になってくる。</p> <p>職員一人ひとりの安全意識を高めるため、園内研修では積極的に外部講師を招いて研修と育成を実施している。また、事故の大小にかかわらず報告を義務化し、原因を究明して今後の対処法などを全員で共有するようにしている。</p> <p>今後は、保護者とのコミュニケーションを図り、地域や関係機関との連携体制を構築してゆく必要がある。</p>	A
認定こども園の特色を生かした保育活動の展開。	<p>就学前の子どもに幼児教育と保育を一体的に提供できる強みを発揮して、幼児期の終わりまでに育ってほしい子どもの姿を念頭に、知識の基礎、思考力、学びに向かう力といった資質・能力を育て、就学先での学びにつながる基礎を培う必要がある。そのためには、就学先との連携、園と就学先間で子どもの発達状況や個性に関する情報を共有することが不可欠である。</p> <p>年間を通して就学先の見学や交流活動などを実施し、就学先教員が就学前の子どもの実態を理解して、円滑な接続ができるような活動を実施することができた。</p> <p>また、特別な支援が必要な子どもについては、個別の教育支援計画を策定し、療育機関との連携を図って多角的な視点から子どもをサポートし、発達状況や配慮事項を就学先と共有することができている。</p>	A

園の財務状況と積極的な公開。	<p>法人及び施設の経営状況については、監事・公認会計士により適正に運営されている。また、県や市町の監査、特に文書をもって是正改善が指示される事項はない。</p> <p>事業報告書、財産目録、貸借対照表等を作成し、常にこれを事務所に備え置いて、閲覧の請求があった場合には正当な理由がある場合を除き、これを公開するように準備している。令和7年度の財務状況は、認定こども園への移行に伴い改善されているが、依然として地域の少子化等が続いているので、さらに特色のある園運営を展開して行く必要がある。</p>	A
----------------	---	---

4. 学校評価の具体的な目的や計画の総合的な評価結果		
	<p>取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、取り組み状況を話し合うことを通して、本園としての方針を明確にすることができているが、それを実践する礎とするためには、さらに幼稚園部と保育園部の密接な情報交換の場と共同した実践が必要である。</p>	B

5. 今後取り組むべき課題		
教職員の資質の向上	<p>小学校との接続、環境設定、遊びからの学びについて、保育教諭同士で意見交換しあう機会をつくり、全体で保育につなげていくことができている。日常の保育教諭と子どもとのかかわりの姿や、子どもの遊びについて、フリートークしながら積極的に意見交換をしている。様々な保育教諭の意見、特に経験の少ない保育教諭の着眼点にふれることで刺激になり、視野も広がって保育への取組の意識にも変化が見られつつある。保育目標の設定を重視し、その保育を通して子どもの育てたい面、私たちの願い等をしっかり持ち、ぶれないようにしながら、今後、幼稚園部と保育園部の会議を行い、具体的な情報を共有し、それぞれの保育力向上に取り組んでいく必要がある。</p>	
健康・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナにかわって他の感染症の流行が多数見られおり、集団感染を防ぐ意味においても、対処の方法を家庭との連携を強化しながら共有する。また、消毒や換気、手洗い、うがいといった基本的予防策対応の徹底を図っていく。 ・ 災害はいつ何時おこるかかわらないと言われるように、日ごろからの防災意識の徹底を図ると同時に、園児にもわかりやすく防災知識をしっかりと伝えていく。毎月の避難訓練を実施すると共に、総合避難訓練で指摘を受けた事項についても着実に実施できるよう計画にも盛り込むようにする。 	
家庭との連携	<p>就労支援の意味合いが強い現在の保育(長時間保育)においては、家庭との連携を更に強めながら、共通理解のもと相互協力でもって子どもの育ちを支援していくことが重要であると考え。園内でも更に基本的な生活習慣の確立に向けた活動や保育を強化していく一方、保育から教育への連続性を重視しながら各家庭についても情報と協力を求めていく。</p>	
効率化の推進	<p>園のホームページやインターネット機能、メール・リスト機能などを十分に活用しながら、家庭との連携を図っていく。また、今後については、SNSの活用やホームページの刷新についても視野に入れ検討していく。</p> <p>登降園管理や日々の保育の振り返り、週案にもとづく反省についても、ICT機器を有効に活用しながら保育者の負担軽減に繋ぎ、働き方改革に積極的に取り組んでいく。同時に新たな人員の確保に努めていく。</p>	
学級編成と保育活動の展開	<p>4月からの乳幼児クラスの園児数増加に伴い、子どもたちがスムーズな園生活をスタートできるように計画を立てる。特に1歳児は半数近く、2歳児は全員が保育園棟から幼稚園棟へ移動するため、幼稚園棟と保育園棟の情報の共有と連携を強化しながら、幼稚園部と保育園部の一体的な連続性を構築していく。</p>	
指導計画の編成と実践	<p>今後は、教育課程および教育要領の理解を一層深め、それに基づいた月案・週案の立案と実践への落とし込みを徹底する必要がある。年間の教育目標や指導計画を意識し、それを日々の保育に的確に反映させることが求められる。保育のねらいや意図を明確にし、計画的かつ意図的な保育活動を実践する力を養うことが課題である。</p>	

6. 学校関係者の評価(自己評価の結果を踏まえた評議員会/PTA代表者会/保護者アンケート等から)		
	<p>安心安全に園生活を送れるように、ハード、ソフト両面からの改善に力点を置いていることが伝わってくる。また、一人一人の子どもたちが伸び伸びと遊びや園生活を送っている姿を見ることが出来る。保護者に向けて、幼稚園の教育内容や子どもの成長をわかりやすい形で発言しているが、もう少し普段の様子なども積極的に発言してほしい。今後も認定こども園の特性を活かした教育の遂行に期待するとともに、園の成長を見守っていききたい。</p>	B